

海外生活 エッセー

シドニー事務所

オーストラリアの「和」の心 あるがままに違いを認め合う

(一財)自治体国際化協会シドニー事務所 所長補佐 井上 史郎 (広島県三原市派遣)

全人口約 2,542 万人のうち 51.5% が海外生まれ、または両親のどちらか (もしくは両方) が海外生まれであり、性的指向や性自認に基づく差別を違法とし LGBTQIA+ に理解のあるオーストラリアでは、バックグラウンドや性自認が多様な人々が集まり社会を形成しています。そんな社会にあって、日々の生活の中で、お互いの違いを認め合うための取り組みに触れることができます。

→ Harmony Day and Week

毎年 3 月 21 日を “Harmony Day”、3 月 21 日を期間中を含む月曜日から日曜日までを “Harmony Week” とし、オーストラリアの文化的多様性を祝福しています。1999 年からこれまで、Harmony Week 期間中には計 8 万を超えるイベントが、保育所、教会、民間企業や公的機関などで開催されてきました。公立小学校では、調和の重要性に関する授業を行う、出身国の服装で登校するなど、今年も各学校で色々なことが行われました。私の娘たちが通う公立小学校では、Harmony Day にシンボルカラーであるオレンジ色の物 (ソックス、カチューシャなど) を身に着けて登校するよう呼び



Harmony Day にオレンジ色のソックスで登校

かけられ、娘たちはオレンジ色の髪飾りを身に着けて登校しました。まだまだ英語が上手く理解できない場面が多く、学校生活で苦労することのある娘たちですが、この Harmony という言葉はそんな娘たちをクラス・学校の一員として受け入れてくれている感じがして、とても嬉しく思いました。

→ All Gender Identities

シドニー市内にある現代美術館の中には、よく見る女性用・男性用トイレのサインではなく、“These bathrooms are for people of all gender identities.” と表示されたトイレがあります。女性用・男性用のサインを並べた UNISEX とも違う、女性用か男性用かを限定しないオールジェンダー用のトイレです。性別を表記しないところに、性自認に関する意識の高さと、当事者への配慮が表れていると感じました。

These bathrooms are for people of all gender identities.
Women's and men's bathrooms are located on Levels 3 and 4.



シドニー現代美術館のトイレの表示

「和」とは、日本の文化を示す際に用いられることがあります。この字には、「調和がとれていること」という意味があります。オーストラリアには、生まれた国や言語、見た目、性自認は人それぞれであって、決められた型にはめ込むことで安心するわけでもなく、型にはまらない人を異端として扱うわけでもなく、あるがままにお互いがお互いを認め合い、調和のとれた社会を形成していこうとする「和」の心が感じられます。